

# 栗国村景観むらづくり かわら版

※この「かわら版」は、栗国村の景観むらづくりの取り組みについて、村民に情報共有や共通理解を図るために作成したものであり、全世帯に配布及び村役場ホームページに掲載しています。

## 村民の皆さんと一緒に景観むらづくりを考えるため、美しい栗国村の景観むらづくりを始めます。

- 景観（風景）は地域固有の自然や風土、歴史や文化、村民の暮らし等によって生み出されるものであり、美しい栗国村のむらづくりにとって不可欠な要素です。
- また、将来の子どもたちに継承してだけでなく、観光・産業や教育・生涯学習等の資源としても活用し、地域の活性化につなげるなどの可能性を探ることが求められています。
- このようなことから、栗国村では、「栗国らしい景観」のむらづくりを村民の皆さんと行政が一緒になって、課題や今後の景観のあり方等を共有し、そして、景観を守り・育て・創るための景観むらづくりの第一歩に取り組み始めることとなりました。

### ○景観むらづくりを進めると・・・

- ・景観形成は、むらづくりのすべてに関わることから、良好な景観むらづくりとは、住み心地のよい快適でうるおいのあるむらづくりでもあります。
- ・景観むらづくりの継続的な取り組みや質の高い地域づくりが進展すると、地域に対する人々の愛着や誇りが生まれ、地域の活性化が進み、栗国島への訪問者も増加し、地域の経済活動の発展とともに新たな雇用の創出効果も期待されます。
- ・また、美しい景観は地域のかげがえのない共有財産であり、土地の経済的な価値を高めることにも貢献します。



※時が経つとともに景観資源の価値が高まり、景観資源から景観資産へと展開する

本村の景観について、村民や村出身者の考え等を把握するために、アンケート調査を実施しました。主なものを以下に紹介します。

## 村民及び村出身者アンケート調査の結果

### ●アンケート調査の目的

栗国村景観むらづくり計画の策定（平成 29 年度）にあたって、村民及び村出身者（郷友会）が本村の景観に抱いている思いや景観形成への参加・協力の意向等を把握するため、アンケート調査を実施し、計画策定の基礎資料として活用するため、村民及び村出身者アンケート調査を実施しました。（詳細は村役場ホームページに掲載しています）

### ●実施方法の概要

対象者	実施方法	実施期間	配布数	有効回収数	有効回収率
村民	区（自治会）の協力による配布、11 の原・組の集会所（倶楽部）及び村役場に回収ボックスの設置による回収	平成 28 年 10 月 14 日（村から区長等に配布） ～平成 28 年 11 月 18 日	433 件	123 件	28.4%
村出身者	郵送による配布・回収（266 部）及び那覇市若狭にある「宝楽」（留置き）の協力による配布（50 部）・郵送による回収	平成 28 年 10 月 21 日 ～平成 28 年 11 月 30 日	316 件	80 件	25.3%

### (1) 粟国島の景観について

Q：粟国島の景観（自然、まち並み、風景、歴史文化等）を魅力的だと感じますか（村民のみ）

A：5割強の村民が『魅力的である』と回答

Q：今後の居住意向（村民のみ）

A：約2/3の村民は『住み続けたい』と回答

Q：粟国村に戻る頻度（村出身者のみ）

A：村出身者の5割弱は「年に数回」と回答

Q：粟国島の景観は10年前と比べてどう変化しましたか。

A：村民の4割半は『良くなった』（村出身者は7割半）。一方で、村民の2割半は『悪くなった』（村出身者は2割）

Q：良くなった理由は。

A：農村公園・展望台、道路、農地・牧場の「公共整備」、海や緑地等の「自然」の保全

Q：悪くなった理由は。

A：「まち並み（各集落）に統一感や調和がなくなった」、「フクギの屋敷林や花壇など緑が少なくなった」、「海や緑地などの自然が少なくなった」（村民）  
「海や緑地などの自然が少なくなった」、「史跡や文化財などが大切に守られ継承されていない」（村出身者）

Q：島のシンボル、誇りとなるような魅力的な風景・場所、史跡・行事とは。（村民及び村出身者）

A：「マハナ・筆ン崎やヤヒジャ海岸等の雄大な風景」、「ヤガンウユミ、マースヤー等の伝統行事・まつり」、「自然のままの海浜景観」（村民及び村出身者とも）

Q：島の嫌いな景観、好ましくない景観とは。

A：「道路の維持管理（ゴミ・雑草、破損した道路の放置）」、「空き家（管理面）」、「集落景観（フクギ・石垣・赤瓦屋根の減少、ブロック塀）」、「集落内外のゴミ・不法投棄」、「のぼりや垂れ幕」など

Q：伝統的な木造平屋の家屋及び石積み・ヒンプンやフクギの屋敷林等の屋敷囲いについて

A：村民の8割が「伝統的な木造平屋の家屋」及び「石積み・ヒンプンやフクギの屋敷林等の屋敷囲い」とともに『残してほしい』

### (2) 景観形成に向けた取り組みの姿勢について

Q：景観形成に向けて取り組む際の姿勢とは

A：行政主導でなく村民・事業者・行政がともに進めていくが最多（村民）

Q：村民参加の景観づくりについて（村民のみ）

A：村民の4割は「興味があるので知りたい」、2割半は「興味があるので参加したい」と回答

### (3) 景観形成のルールについて

Q：景観形成基準の考えについて（村民のみ）

A：村民の約5割は「基準を設ける対象や内容によっては賛成である」、2割半は「美しい景観の形成・維持のための基準を設けることは大いに賛成である」と村民の大半は基準づくりに賛成

Q：建築物の高さの考えについて（村民のみ）

A：村民の約5割は「建築物の高さの制限をすべき」、約3割は「建築物の高さの制限は必要ない」

Q：屋敷囲い（塀や石積み等）の考えについて（村民のみ）

A：村民の3割は「塀の高さ制限は必要ない」、4割は「屋敷囲いに関して何らかの制限を設ける」（コンクリートブロック塀の高さ制限、修景した塀、塀の緑化）

A：村民の5割半は「何らかの敷地内緑化を行うべき」

### (4) 自由意見：大きく以下の点について意見・提案等がありました。（村民及び村出身者）

1. 景観づくり：沖縄・粟国らしさを壊さない景観づくりが大切／景観の良さが観光PRに成り得る／石垣、福木並木、赤瓦の風景等を残してほしい／ゴミの不法投棄、車両や船の放置の対策を
2. 村民参画：村民の意識づくりと村民の参加を／住んでいる地域住民の意見が大切に／規制する一方で、良い景観を創出する場合は助成の検討を／島民（老若男女）の生活に不自由を与えない程度の景観づくりを
3. 清掃・美化、維持管理：月に1回位は部落全体で清掃活動をしてほしい／集落観光が多い時は草刈りを／高齢世帯の増加に伴い、植栽や緑化の管理に手間暇がかかるため、家主の希望を尊重する／来島者に1人一本の植栽のため、場所、材料を準備して対応・協力を求める。若しくは支援金500～1,000円程度のカンパでアピールを